

上島の文芸

水曜会【弓削】

平凡な暮しになれて春隣はるとなり

亀島 一美

待ち兼ねし春春と句を詠みし

小林 しぐれ

夜には夜の海苔漉く音のありにけり

田坂 紫苑

庭内の唯一本の梅咲きぬ

田坂 美代子

虫干のつもりの雛飾りけり

中本 砂恵子

同病の友の眼優し春隣

畑 弓道

夫の言ふ義理チヨコバレンタインの日

森本 恵子

生名短歌会【生名】

よき友と温ぬくき食事があればよい八十五歳春を待ち
おり

村上 宗子

ヨチヨチと落葉の上に音をたてひ孫は歩く一歳二
か月

村上 司

新型のインフルエンザの病原菌を恐れてこもる部
屋に春来る

渡辺 スズ子

笑まいつつ来客迎えし面影を立たせてうす紅佗助椿

池本 滝子

古希・喜寿とここまで来れば何事も怖くないぞと

云えども怖き

日の丸の期待背におい真央ちゃんよく頑張った
ね銀だとしても

増成 君子

豆撒かず鰯も食べず節分の夜さを一人の芋粥
を炊く

池田 友幸

むつみ歌会【岩城】

薄ら日のにぶき光に包まれて渚に驚の身動みじろぎも
せず

宮本 佳世子

無農薬を喜ぶ友に送らんと色よく熟れしみかん
摘み进行

浪本 綾子

念願の百観音霊場を八十の年の初めに巡り終へ
たり

池田 繁雄

それぞれに自己のベストを尽くしをり冬季五輪
のアスリートたち

森本 和佳

兄弟の多き昔を思い出づ襦袢おむつとり替へ弟背負ふ
白石 勇

魚島俳歌柳会【魚島】

春近し紋付の皆飛び去りぬ
故里に帰りて鮭も死すという我も動かじこの魚
島を

増井 富士雄

昨年と同じ日附けに咲きし梅
庭内の花の水仙つばきかな

三上 運

凍海の枡網に子と連れ立ちて向ふ笑顔の嫁を見送る

三上 タキコ

便りする亡き戦友の妻や子に
花眺めつつの句づくり逍遙す

大船 近義

お悔みの欄を見ている高令者
致仕後三年コンビニで買う自分チヨコ

佐伯 真柳

無料化で仕事も国も無くすのか
改革をいうほど人も財もなし

柳 小福

底曳船行く手の島の片時雨
節分の鬼追い出して過疎の島

松原 瑞峰

平成21年度NHK全国俳句・短歌大会

ジュニアの部 入選

(平成22年1月24日)

《俳句大会》

◎風の音初夏を呼びこむ準備中

岩城中学校1年 加納明日華

◎ばあちゃんと歩く目的スйкаとり

岩城中学校3年 加納 莉沙

◎柿・林檎紅葉始めし冷蔵庫

岩城中学校3年 村上 もも

《短歌大会》

◎妹は二学期始まり忘れ物階段かけてわたしにせ
まる

弓削小学校5年 河本 百花

◎青い空みなな歓声吸い込んで島中揺れる紅白リ
レー

岩城中学校2年 山本 萌黄

◎夕焼けのカラスと一緒帰り道どっちが早いか負
けじと立ちこぎ

岩城中学校2年 村上 菜望

かみじま歴史探訪

郷土の先輩たちシリーズ②

近代海運界の星 田坂初太郎

初太郎は幕藩鎖国体制が動揺し始めた嘉永四（一八五二）年に弓削島の浜都に誕生。明治四（一八七一）年に風呂敷包み一つを提げて神戸へ行き、廻漕取扱所（日本国郵便蒸気船会社の前身）の見習い水夫となりました。月給は二円五十銭でした。神戸と東京間を往復する航路は、まだ鉄道が未開通なので利用者は多かった。その後、姉妹船の万里丸に水夫として乗船します。万里丸は鉄製の外輪式汽船で、船長の小笠原賢蔵は、榎本武揚と共に函館で降伏した幕臣でした。彼は「一心不乱に勉強すれば、私以上に立派になれる」と激励してくれました。

明治九年には水夫長となり、東京に住んで、日本橋の唐物問屋の一人娘の仲子と結婚しました。明治十年には、西南戦争の関係で品川に警視庁の水上警察所が創設されることとなり、警視庁の雇員、舟艇仁風丸の水夫監督となります。間もなく署長の山移三成に勧められて、受験して艇長となります。受験料五円は署長の工面でした。その署長は間もなく西南戦争に従軍して戦死します。その後、佐渡の今津の海航業者千足利衛門に招かれ、スクーター型（洋式）帆船全国丸や日本丸、千足丸、皇国丸等の船長として近海を航海しました。その後、工部省の帆船千早丸や同福社の帆船第二同福丸等の帆船の船長に



田坂初太郎氏

もなりました。その間、甲種（外国航路）船長免状試験の受験勉強にも励み、明治十五年にこの試験に合格しました。学卒者以外では最も初期の合格でした。

明治十七年には三井物産に移り、帆船開成丸の船長となり、明治二十二年には日本石灰会社の汽船豊国丸船長となりました。この会社は間もなく解散して豊国丸は佐渡の廻漕業者秋田藤十郎所有の佐渡国丸に変身しました。田坂は引き続き同船に乗務します。翌年、田坂が交替で下船した直後に佐渡国丸は北海道の松前沖で座礁沈没しました。そこで田坂は代船入手のため香港に派遣され、中古船（佐渡国丸と命名）をサムソン商会から五万円で購入します。ところが、その間に、社主の秋田藤十郎は株取引で破産し、田坂は自分で借金して入手し、事業家に変身して廻漕業に専念しました。間もなく借金も返済できました。

日清戦争が勃発すると、田坂汽船の佐渡国丸も御用船に徴用され、廃業も考えましたが、妻仲子の忠告で中止、香港のサムソン商会から玉姫丸（二千五百トン）を入手します。この玉姫丸も徴用され、その船長には佐渡国丸の船長であった初太郎の末弟、為松が移って船長を勤めました。為松は十四歳のとき、郷里から品川に呼び寄せられて航海学を学び、二十二歳で甲種船長免状を取得、その後、米国の軍艦や英・仏・露国船等にも乗船したベテラン船員でした。

また明治二十七年、北海道岩内郡発足村に田坂農場（面積五百余町、実測一千町）を所有、小作人は百余戸でした。一方、佐渡国丸は日露戦争まで海軍省の御用船で、その運用に尽力してくれたのは、のちシーメンス事件に連座した松本和（日清戦争当時海軍大佐、艦政本部勤務、のち呉鎮守府長官）でした。

日清戦争が終結すると、にわかに船員の待遇が悪化し、高級船員は対抗上、船長仲間の船員倶楽部を結成し、弟の為松はそのリーダーとして活躍しまし

た。弓削の浜都の海岸には、その功績を紹介した大きな記念碑が建っています。

やがて初太郎は、船舶の保持に欠かせないポイントに注目して、明治二十八年には合資会社日本ベイントを創設、同社は明治三十一年には株式会社となり、また、株式会社品川銀行の頭取も兼務し、明治四十五年に出版された『財界一百人』（中央公論社刊）には、初太郎も登場しています。郷里でも、明治三十四年には、因島船渠株式会社を創設、明治四十一年には第十回衆議院選挙（愛媛県）に当選し四坂島の公害問題等について尽力しました。

商船学校創設に向けて精力的な行動を開始し、地元の有志と共に実地上がりて甲種（外国航路）船長や機関長になっていた仲間たち数十人も応援に立ち上がり、明治三十四年には弓削村ほか一ヶ村（岩城村）立の弓削海員学校が誕生、翌年には弓削村ほか五ヶ村立甲種商船学校に、明治四十一年には県立に移管されました。

悲運にも直面、帝国議会に議席を持つことになった明治四十一年の秋に「因島船渠会社刑事事件」に直面します。このため衆議院議員も辞職、日本ベイントの社長職も女婿田坂友吉と交替しました。大正六年刊の『努力四十年』と題した自叙伝（口述筆記）に事件の詳細が記されています。その後大正十年に小田原の別荘で静養中に死去、その墓は弓削の自性寺に建てられています。



田坂初太郎氏のお墓

弓削商船高専・岡山商科大学名誉教授

村上貢 稿